

# 公共図書館に向けた「がん情報ギフト」の効果と課題

須賀千絵（実践女子大学）suga-chie@jissen.ac.jp  
池谷のぞみ（慶應義塾大学）nozomi.ikeya@keio.jp  
桂まに子（京都女子大学）katura@kyoto-wu.ac.jp  
田村俊作（元慶應義塾大学）tamaran@z3.keio.jp  
松本直樹（慶應義塾大学）matsumoton@keio.jp  
三輪眞木子（放送大学）miwamaki@ouj.ac.jp  
八巻知香子（国立がん研究センター）cyamaki@ncc.go.jp

## 抄録

本研究の目的は、国立がん研究センターによるがん情報ギフトの寄贈を受けた館でのギフトの活用方法やギフトに対する認識を調査することを通して、プロジェクトの効果と課題を検証することである。2018年3月まで寄贈を受けた43館にアンケート調査を実施し、展示光景の写真等と共に分析を行った。その結果、信頼できる情報が提供できた等の効果が認識されていた一方で、プロジェクトのねらいが図書館側に十分に理解されていないなどの課題があることが判明した。

## 1. はじめに

国のがん対策の中心機関である国立がん研究センターは、がんに関する信頼できる情報の普及のため、医療、福祉、図書館の連携を推進しており、その一環として、2017年7月より「がん情報ギフト」プロジェクトを開始した。がん情報ギフト（以下、ギフト）とは、国立がん研究センターの発行するがん関連のパンフレット・リーフレット等のセットを公共図書館に寄贈するという取り組みである<sup>1)</sup>。（表1）（図1）。

表1 ギフトのセット内容

|                         |                      |                              | 配布数    |
|-------------------------|----------------------|------------------------------|--------|
| 閲覧用パンフレット               | 「がんの冊子」(57種・6分冊) 注1) |                              | 各 1    |
|                         | 『がんと仕事のQ&A』          |                              | 1      |
| 配布用パンフレット・リーフレット        | 「がんの冊子」              | 『胃がん』                        | 50     |
|                         |                      | 『大腸がん』                       | 50     |
|                         |                      | 『大腸がん』                       | 50     |
|                         |                      | 『乳がん』                        | 50     |
|                         |                      | 『科学的根拠に基づくがん予防』              | 50     |
|                         |                      | 『家族ががんになったとき』                | 50     |
|                         |                      | 『ガンの療養と緩和ケア』または『もしもがんと言われたら』 | 50     |
|                         |                      | 『がんと仕事のQ&A』                  | 20 注2) |
|                         |                      | 『知れば安心がん情報』                  | 500    |
| 卓上パンフレットスタンド（A4判用・A5判用） |                      |                              | 各 1    |

注1) 「がんの冊子」シリーズ本体のタイトル見直しに即して、途中から46種（5分冊）に変更。

注2) 印刷ロット数の関係上、途中から5部に変更。



図1 がん情報ギフト<sup>1)</sup>

ギフトの中心は、がん患者やその家族などに向けて、各種がんの個別の解説やその他のトピックをコンパクトにまとめた「がんの冊子」シリーズのパンフレットである。刊行中の全タイトル各1部をバインダーに入れ、一部のタイトルは配布用として複数部数を寄贈した。また地域によって、地元のがん相談支援センターが「療養サポートハンドブック」（それぞれの地域におけるがん患者に対する各種支援について案内する印刷物）を提供し、上記セットと合わせて寄贈したところもある。

事業の原資は一般からの寄付であり、寄付する際に、寄贈先の都道府県の指定ができる。指定を受けた都道府県への寄付が3万円集まるごとに、都道府県立図書館を通して、図書館1館にギフトが寄贈される。寄贈先は、都道府県立図書館が希望を募って決める。2018年7月末までに、全国27都道府県75館の公共図書館に

ギフトが寄贈された。寄贈を受けた館には、展示光景の写真と 100～200 字程度のメッセージの提供が求められ、これらはプロジェクトを紹介するページに掲載された<sup>1)</sup>。

本研究の目的は、寄贈を受けた図書館におけるギフトの活用方法、図書館のギフトに対する認識等を調査し、プロジェクトの効果と課題を検証することである<sup>2)</sup>。

## 2. 方法

効果や課題を知るには、寄贈から一定の期間を経ている必要がある。そのため研究の対象は、2018 年 3 月までにギフトの寄贈を受けた 43 館とした。43 館の内訳は表 2 に示した。都立中央、多治見市、三島市、めりーらいん<sup>3)</sup>参加館（尾張旭市、日進市、瀬戸市、長久手市）、東近江市能登川図書館など、健康・医療情報サービスに定評のある館も含まれている。

2018 年 8 月に、対象館にアンケート調査を実施し、計 35 館から回答を得た（回収率 81.3%）

（2018 年 9 月 7 日現在）。合わせてギフトの展示の状況などについて詳細な情報を得るため、図書館からがん研究センターに提供された展示光景の写真やメッセージ、各図書館 web サイトや Twitter、新聞記事等を収集した。

## 3. 結果

アンケートの結果と写真等の資料に基づいて分析した結果を以下に示す。後者については、アンケートの回答がなかった館のものも分析に使用した。文中で市町村立図書館は「市立」、都道府県立図書館は「県立」と略記した。

### 3.1 展示期間・配架場所

ほぼすべての館（31 館）がギフトを常設で展示している。この中には 1 か月程度テーマ展示し、その後配架場所を移したものも含まれる。配架場所は 20 館が「医学関係の本の書架の近く」と回答している。このほかに「健やか生活応援コーナー」「めりーらいん（医療情報）コーナー」など類似の名称のコーナーに配架した例（2 館）も合わせると、約半数が健康・医療に関わる資料の近くにギフトを配架している。

表2 調査対象館

| No | 都道府県 | 設置者 | 図書館名                 | 蔵書冊数<br>(千冊)    |
|----|------|-----|----------------------|-----------------|
| 1  | 北海道  | 市立  | 函館市中央図書館             | 712,989         |
| 2  | 岩手県  | 県立  | 岩手県立図書館              | 769,800         |
| 3  | 岩手県  | 市立  | 紫波町図書館               | 88,286          |
| 4  | 東京都  | 県立  | 都立中央図書館              | 2,019,601       |
| 5  | 東京都  | 県立  | 都立多摩図書館              | 517,358         |
| 6  | 富山県  | 市立  | 黒部市立図書館黒部館           | 170,304         |
| 7  | 富山県  | 町立  | 朝日町図書館               | 108,717         |
| 8  | 富山県  | 市立  | 砺波市立砺波図書館            | 241,019         |
| 9  | 石川県  | 県立  | 石川県立図書館              | 833,486         |
| 10 | 福井県  | 県立  | 福井県立図書館              | 990,302         |
| 11 | 福井県  | 県立  | 福井県立若狭図書学習センター       | 277,824         |
| 12 | 長野県  | 県立  | 県立長野図書館              | 694,272         |
| 13 | 長野県  | 市立  | 市立小諸図書館              | 138,417         |
| 14 | 岐阜県  | 県立  | 岐阜県図書館               | 1,040,409       |
| 15 | 岐阜県  | 市立  | 高山市図書館               | 205,413         |
| 16 | 岐阜県  | 市立  | 美濃加茂市中央図書館           | 144,533         |
| 17 | 岐阜県  | 市立  | 大垣市立図書館              | 368,359         |
| 18 | 岐阜県  | 市立  | 多治見市図書館              | 439,106         |
| 19 | 岐阜県  | 市立  | 土岐市図書館               | 185,522         |
| 20 | 静岡県  | 県立  | 静岡県立中央図書館            | 820,541         |
| 21 | 静岡県  | 市立  | 三島市立図書館              | 415,179         |
| 22 | 静岡県  | 市立  | 浜松市立城北図書館            | 249,835         |
| 23 | 静岡県  | 市立  | 裾野市立鈴木図書館            | 197,574         |
| 24 | 愛知県  | 県立  | 愛知県図書館               | 1,129,199       |
| 25 | 愛知県  | 市立  | 日進市立図書館              | 363,427         |
| 26 | 愛知県  | 市立  | 長久手市中央図書館            | 223,951         |
| 27 | 愛知県  | 市立  | 瀬戸市立図書館              | 309,914         |
| 28 | 愛知県  | 市立  | 尾張旭市立図書館             | 205,654         |
| 29 | 愛知県  | 病院  | 愛知医科大学病院健康情報室（患者図書室） | 約1,000冊<br>(図書) |
| 30 | 三重県  | 県立  | 三重県立図書館              | 857,793         |
| 31 | 三重県  | 市立  | 尾鷲市立図書館              | 69,803          |
| 32 | 三重県  | 町立  | 紀宝町立鶴殿図書館            | 58,926          |
| 33 | 三重県  | 町立  | 多気町立勢和図書館            | 85,363          |
| 34 | 滋賀県  | 市立  | 米原市立山東図書館            | 138,373         |
| 35 | 滋賀県  | 市立  | 長浜市立長浜図書館            | 269,262         |
| 36 | 滋賀県  | 市立  | 高島市立今津図書館            | 165,281         |
| 37 | 滋賀県  | 市立  | 守山市立図書館              | 315,223         |
| 38 | 滋賀県  | 市立  | 東近江市立能登川図書館          | 218,841         |
| 39 | 滋賀県  | 県立  | 滋賀県立図書館              | 1,411,705       |
| 40 | 兵庫県  | 市立  | 姫路市立城内図書館            | 535,027         |
| 41 | 鳥取県  | 県立  | 鳥取県立図書館              | 1,103,847       |
| 42 | 島根県  | 市立  | 出雲市中央図書館             | 244,087         |
| 43 | 香川県  | 県立  | 香川県立図書館              | 1,002,630       |

出典：29以外 『日本の図書館2017』日本図書館協会，2017，

29のみ 『アイブラリー通信』no.1, 2015.

写真からは、「医学関係の本の近く」という配架位置にもさまざまなパターンがあることがわかった。例えば、健康・医療関連資料の置かれている書架やそれに隣接する書架の数段をギフト専用としたもの、低書架の上段に置いたもの、書架の近くに机やパンフレット専用書架を置いて配架した例などがあった。レイアウト方法によって、健康・医療関連の資料の中に埋め込まれているように感じられるものがある一方、書架とは別の机の上に別置されているものなど、他の資料と離され区別されているように感じられるものもあった。

### 3.2 ギフト以外の資料や情報源との関連

ギフトと一緒に配架・展示した資料・パンフレット等について尋ねたところ、がん関連の所蔵資料（17 館）と回答した館が約半数あったほか、関連のパンフレットやちらし（医療機関 16 館、がん検診 12 館、その他のがん関連 16 館）の回答も多かった。ユニークな例では大腸がん検診用キット（市立 1 館）という回答もあった。

一方で、一緒に配架しているものは特にないという回答も 5 館あった。さらに写真を見ると、一緒に所蔵資料や他のパンフレットを配架していると回答している場合でも、その種類がごく少ない館もあった。

### 3.3 サイン・展示解説

サインや展示解説の内容は、「がん情報ギフトのテーマ名」（25 館）、「がん情報ギフトプロジェクトの紹介」（14 館）が多かった。写真からは、ギフトに同封されていた A4 判 1 枚のプロジェクトの紹介文を掲示、配布した例が多く確認できた。一方で、市民に向けた「寄付の案内」（5 館）は少なかった。

### 3.4 受入

ギフトとして寄贈された資料については、「全部または一部受け入れた」が計 20 館、一方、「受け入れなかった」が 14 館あった。「受け入れなかった」のうち、データ登録はしていないが、館内閲覧用として活用していると回答した館が 4 館あった。受け入れなかった理由としては、「形状が書架での保管や貸出に適していない」（10 館）が最も多かった。自由記述でも、図書

の形態での提供を求める声が複数あった。

なおパンフレットを受け入れ、データ入力している場合でも、OPAC を検索したところ、一部の図書館では個々の内容細目が入力されておらず、個々のがんの名称等からパンフレットを検索できない状態にあった。

閲覧用のパンフレットはバインダーに収納されているが、寄贈された状態では、背表紙に内容が書かれていなかった。外から見て内容がわからないため、写真からは、寄贈を受けた館の側で、個々のパンフレットの名称を背表紙に書き加えている館も多く見られた。

### 3.5 パンフレットに対する利用者の反応

配布用パンフレット・リーフレットのうち、好評であったもの、反応が乏しかったものを順位で尋ねた。タイトルによる配布枚数の違いなどから厳密な比較はできないが、持ち帰り状況からおおよその順位を付けてもらった。（表 3）

表 3 各パンフレットの好評・反応の乏しさの順位

| 好評            |                 | 反応が乏しい        |
|---------------|-----------------|---------------|
| 1-3位累計<br>(館) | パンフレット類の名称      | 1-3位累計<br>(館) |
| 10            | 『胃がん』           | 3             |
| 11            | 『大腸がん』          | 3             |
| 3             | 『肺がん』           | 5             |
| 6             | 『乳がん』           | 7             |
| 11            | 『家族ががんになったとき』   | 3             |
| 3             | 『がんの療養と緩和ケア』    | 2             |
| 9             | 『もしも、がんと言われたら』  | 2             |
| 10            | 『科学的根拠に基づくがん予防』 | 3             |
| 12            | 『がんと仕事のQ&A』     | 2             |
| 1             | 『知れば安心がん情報』     | 10            |
| 0             | その他             | 1             |
| 9             | 大きな差はなし         | 14            |
| 1             | 不明              | 3             |

10 館が『科学的根拠に基づくがん予防』を好評だったと述べているが、自由記入で「パンフレットの無くなり方が圧倒的に予防についての方が早かった」（市立）という記載も見られた。

反応が乏しかったパンフレットとして 1 位から 3 位に挙げた館の合計で最も多かったのは、『知れば安心がん情報』（10 館）であった。ただこのパンフレットについては配布枚数の多さを考慮する必要がある。次いで「乳がん」を挙げ

た館が多かった(7館)。

### 3.6 広報

図書館の web サイト (14 館), SNS (7 館), マスコミへのプレスリリース (9 館), 館報等の印刷物(8 館)が多かった。「その他」には「館内掲示」を挙げた館が 4 館あり, この 4 館は他の広報手段を使用していなかった。ユニークな例としては, 「新聞コラム」「ラジオ生出演」(各 1 館) などがあった。「特になし」という選択肢は設けていなかったが, 「その他」に「特になし」と記載した館が 3 館, またいずれの選択肢も選択していない館が 2 館あった。

なお鳥取県立では, ギフトの配布用パンフレット以外で独自に「貸出セット」を作り, 寄贈登録を検討している公共図書館や, ギフトの対象外の高校図書館に貸し出す取り組みを行っていることがわかった。

### 3.7 効果

8 割以上の館 (29 館) が「信頼できるがん情報の提供」を挙げ, 3 割以上の館が「資料収集の参考」(13 館), 「パンフレット配布のきっかけ」(14 館), 「関係機関との連携のきっかけ」(11 館)を挙げた。効果として「連携のきっかけ」を挙げしていない館の中にも, 「医療関係者に対して, 当館が信頼できる情報提供に努めていることが PR できた」(県立) 等の回答があり, 連携の必要性を意識している様子が伺えた。

また連携先として, 医療機関のほかに, 「県内のがん情報ギフト設置館」(市立) を挙げた館もあった。

### 3.8 課題

効果に比べると, 課題を指摘した館は少なかった。「新しい情報の追加」(7 館), 「パンフレットの種類の見直し」(6 館), 「効果的な展示方法」(5 館) が比較的多かった。他の項目の自由記入も合わせると, 最も多い要望は, パンフレットの追加補充であった (9 館)。

## 4. がん情報ギフトの効果と課題

ギフトを通して, 図書館は, がん関係の信頼できる情報をまとめた形で入手することがで

きた。アンケートから, 多くの館が「信頼できるがん情報の提供」「資料収集の参考」などの点での効果を認識していることが明らかとなった。一方, 国立がんセンターにとっては, 図書館における展示によって, web や病院での配布に加え, いっそう多くの人のもとに「がんの冊子」等のパンフレットを届けることができた。

しかし一方で, 分析を通してギフトの課題も明らかとなった。ギフトの主なねらいは, 図書館を通して信頼できる情報を全国に届けることにあり, 寄贈を受けた館は, 写真やメッセージの提供などを通し, 積極的にプロジェクトの拡大に協力することが期待されている。しかしその意図は図書館側に十分に伝わっておらず, 寄付への呼びかけを行った図書館も一部にとどまっている。またギフトは健康・医療情報を充実させるきっかけとして送付されており, ギフトとして固定的に扱うことは求められていない。しかし多くの館がギフトを他の資料と区別した固定的なコレクションとして扱い, 継続的な資料の送付を求めていることも判明した。整理の点でも, 装備やデータ入力などに工夫の余地がある。プロジェクトのスキームやねらいを図書館に伝えるためには, 例えば一部地域で試行的に実施し, 課題を整理したり, 具体的な活用例を PR することも必要であったように思われる。調整等の負担がかかる都道府県立図書館と十分な話し合いを行うことも求められるだろう。

今後, がん情報ギフトプロジェクトを継続・発展させるために, 具体的にどのような取り組みを行うことができるか考えていくために, プロジェクトの検証を引き続き行う予定である。

### 引用文献

- (1) 国立がん研究センター「信頼できるがん情報を身近な公共図書館へ 届けるを贈る 届けるを支える『がん情報ギフト』プロジェクト」  
[https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/ganjoho\\_gift/index.html](https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/ganjoho_gift/index.html),  
(参照 2018-09-29).
- (2) 発表者のうち八巻以外の 6 名はギフト事業に直接関与していない。本研究で, 八巻はアンケートの設計までの部分を担当した。
- (3) 愛知医科大学総合学術センターと近隣の公共図書館 4 館の連携による健康支援事業。